

課題について

質問 16 部落問題解決のためにさまざまな取り組みがなされてきましたが、あなたが現在特に問題だと思うことはどれですか。あなたの考えに近いものを選んでください。(1つ)

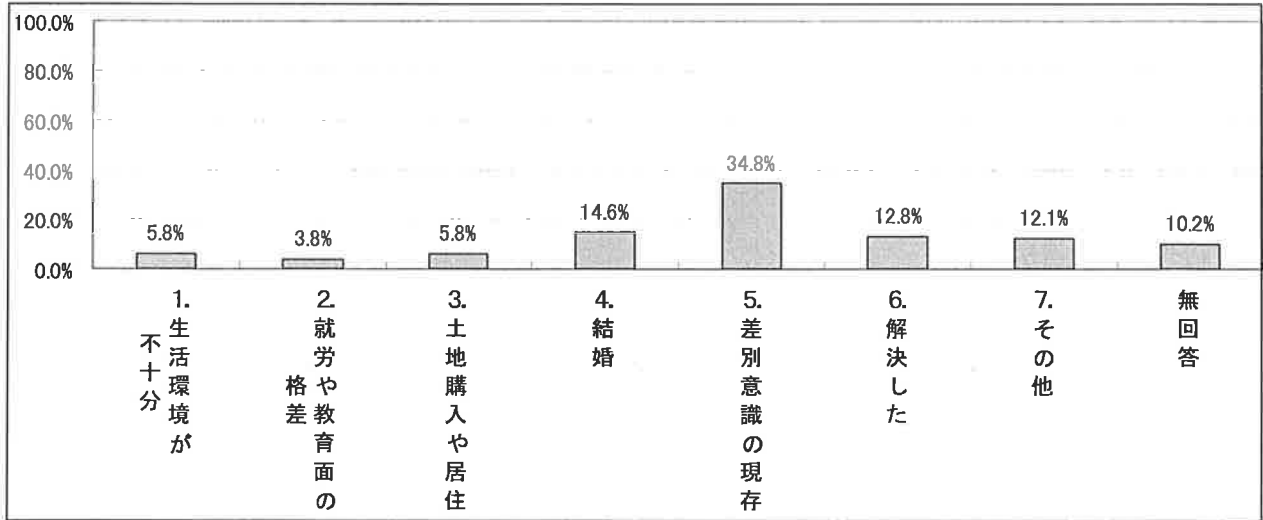
- 1 生活環境がまだ不十分である。
- 2 就労や教育面に格差がある。
- 3 土地や家を購入する等、被差別部落に住むこと。
- 4 被差別部落出身の人との結婚。
- 5 被差別部落の人々に対する差別意識が現存している。
- 6 部落問題は解決したので問題はない。
- 7 その他 ( )

この質問は、部落問題の解決に向けて、今特に課題であると考えている内容について問うている。

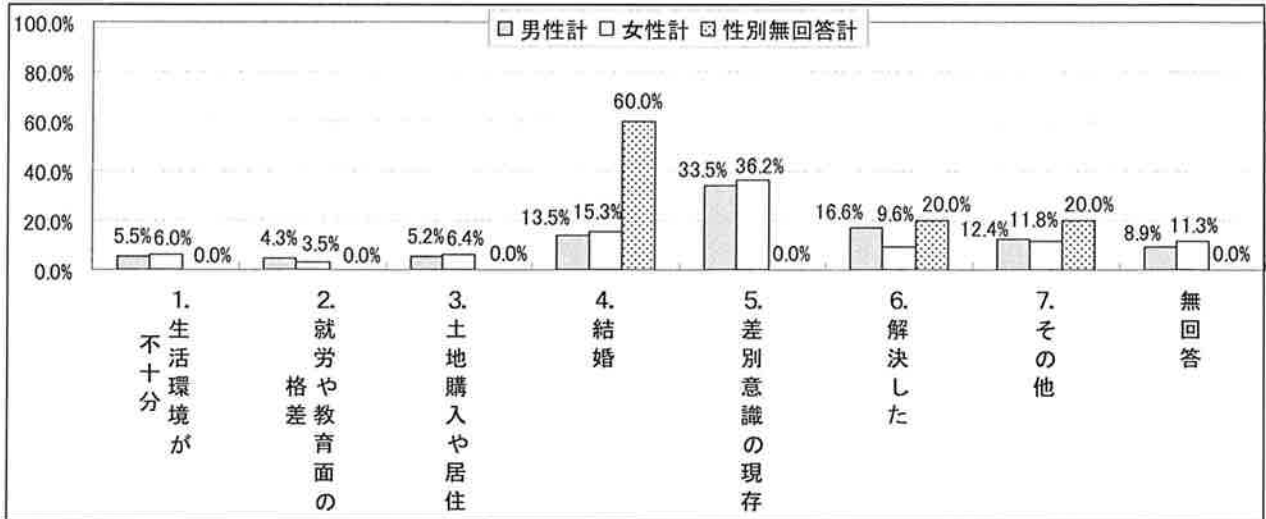
質問 16		1. 生活環境が不十分		2. 就労や教育面の格差		3. 土地購入や居住		4. 結婚		5. 差別意識の現存	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
20才代	男	9	10.1%	5	5.6%	2	2.2%	11	12.4%	29	32.6%
	女	10	9.3%	2	1.9%	8	7.5%	12	11.2%	32	29.9%
	計	19	9.7%	7	3.6%	10	5.1%	23	11.7%	61	31.1%
30才代	男	6	5.5%	1	0.9%	5	4.6%	18	16.5%	40	36.7%
	女	6	4.7%	4	3.1%	5	3.9%	22	17.1%	56	43.4%
	計	12	5.0%	5	2.1%	10	4.2%	40	16.8%	96	40.3%
40才代	男	4	3.6%	7	6.3%	7	6.3%	17	15.2%	43	38.4%
	女	6	4.2%	2	1.4%	9	6.3%	23	16.0%	82	56.9%
	無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計	10	3.9%	9	3.5%	16	6.2%	40	15.6%	125	48.6%
50才代	男	3	2.6%	12	10.3%	8	6.9%	16	13.8%	46	39.7%
	女	9	6.2%	8	5.5%	12	8.2%	24	16.4%	56	38.4%
	計	12	4.6%	20	7.6%	20	7.6%	40	15.3%	102	38.9%
60才代	男	3	2.5%	1	0.8%	9	7.4%	13	10.7%	34	28.1%
	女	6	4.2%	6	4.2%	13	9.0%	27	18.8%	32	22.2%
	計	9	3.4%	7	2.6%	22	8.3%	40	15.1%	66	24.9%
70才以上	男	11	10.6%	2	1.9%	3	2.9%	13	12.5%	26	25.0%
	女	10	9.1%	5	4.5%	3	2.7%	11	10.0%	24	21.8%
	計	21	9.8%	7	3.3%	6	2.8%	24	11.2%	50	23.4%
年代性別無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	75.0%	0	0.0%
合計	男性計	36	5.5%	28	4.3%	34	5.2%	88	13.5%	218	33.5%
	女性計	47	6.0%	27	3.5%	50	6.4%	119	15.3%	282	36.2%
	性別無回答計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	60.0%	0	0.0%
	合計	83	5.8%	55	3.8%	84	5.8%	210	14.6%	500	34.8%

6. 解決した		7. その他		無回答		合計
人数	割合	人数	割合	人数	割合	
7	7.9%	21	23.6%	5	5.6%	89
10	9.3%	28	26.2%	5	4.7%	107
17	8.7%	49	25.0%	10	5.1%	196
15	13.8%	15	13.8%	9	8.3%	109
3	2.3%	18	14.0%	15	11.6%	129
18	7.6%	33	13.9%	24	10.1%	238
18	16.1%	10	8.9%	6	5.4%	112
3	2.1%	9	6.3%	10	6.9%	144
0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	1
21	8.2%	20	7.8%	16	6.2%	257
10	8.6%	11	9.5%	10	8.6%	116
9	6.2%	12	8.2%	16	11.0%	146
19	7.3%	23	8.8%	26	9.9%	262
29	24.0%	16	13.2%	16	13.2%	121
24	16.7%	14	9.7%	22	15.3%	144
53	20.0%	30	11.3%	38	14.3%	265
29	27.9%	8	7.7%	12	11.5%	104
26	23.6%	11	10.0%	20	18.2%	110
55	25.7%	19	8.9%	32	15.0%	214
1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	4
108	16.6%	81	12.4%	58	8.9%	651
75	9.6%	92	11.8%	88	11.3%	780
1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%	5
184	12.8%	174	12.1%	146	10.2%	1,436

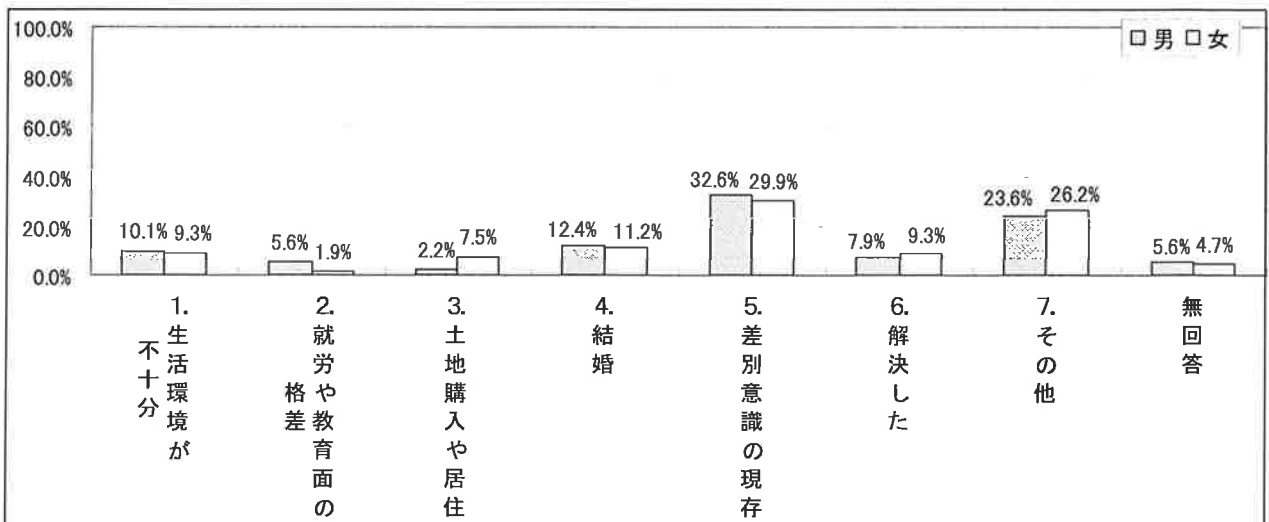
全体



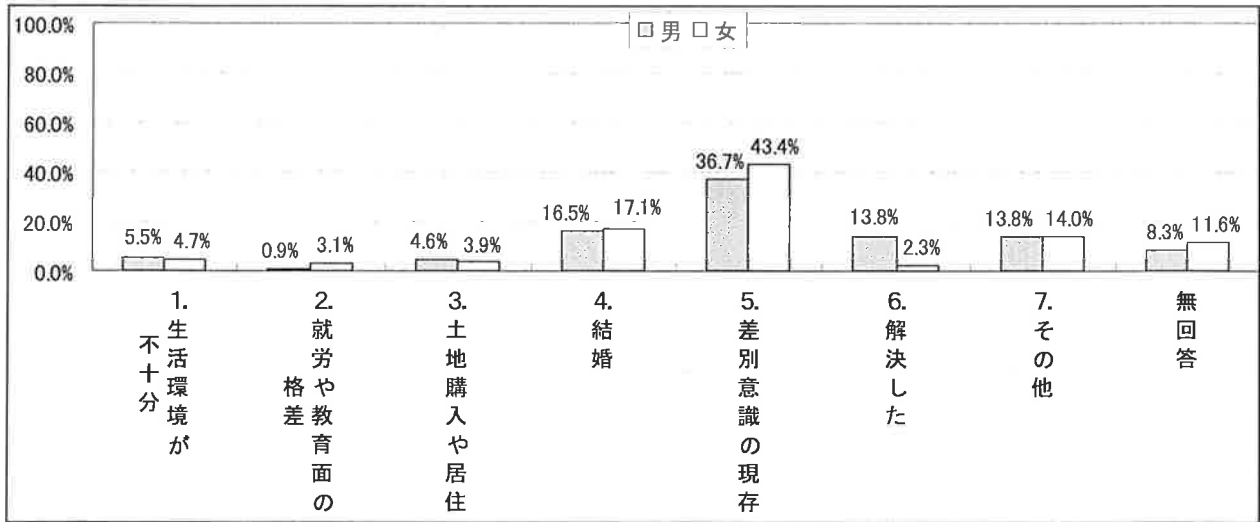
男女別全体



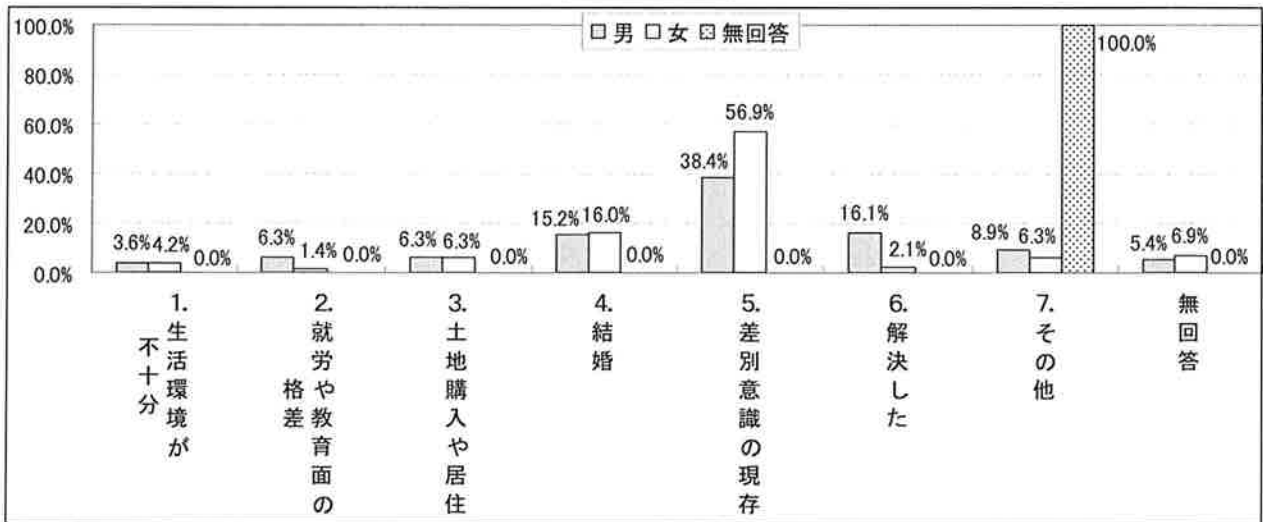
20才代



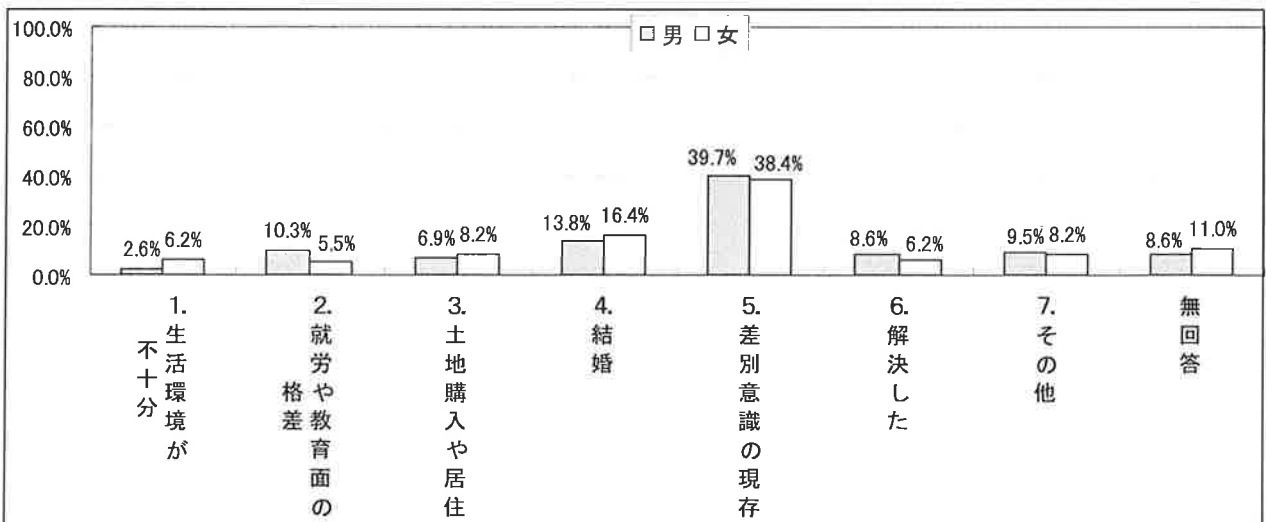
### 30才代



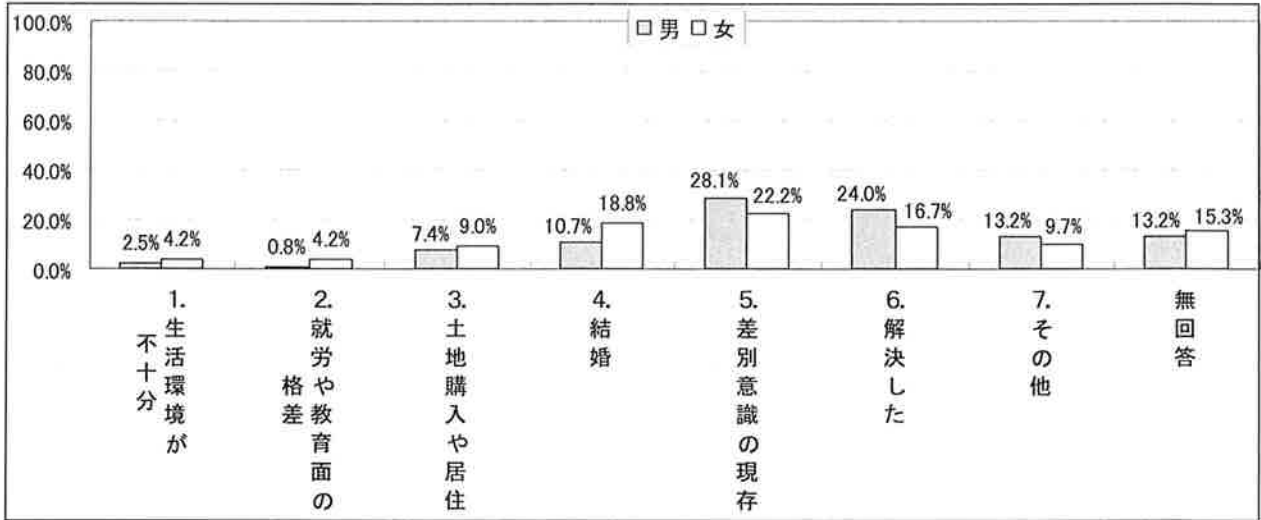
### 40才代



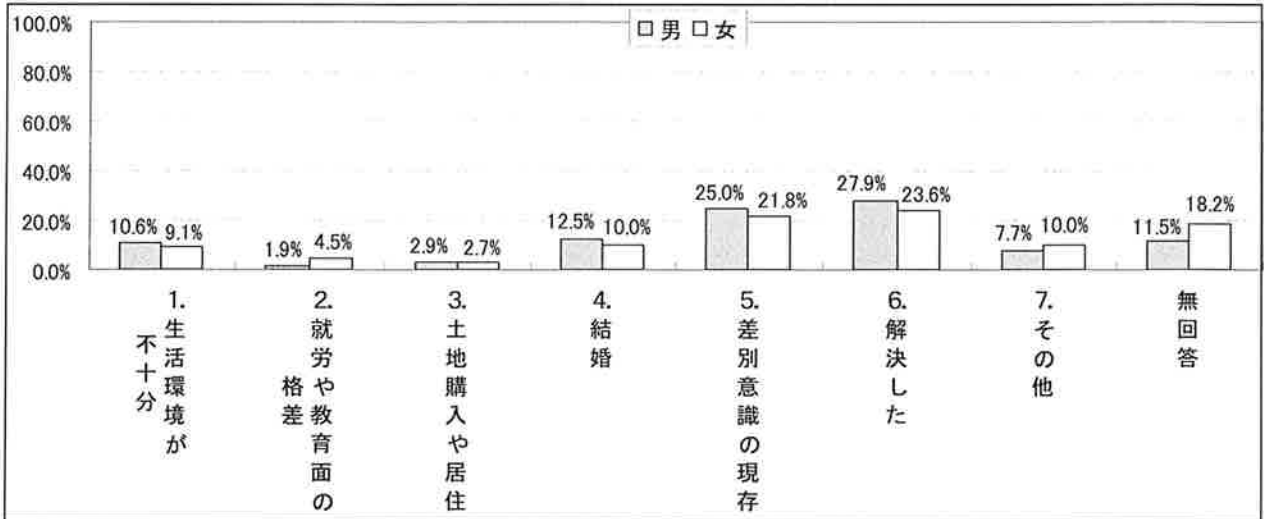
### 50才代



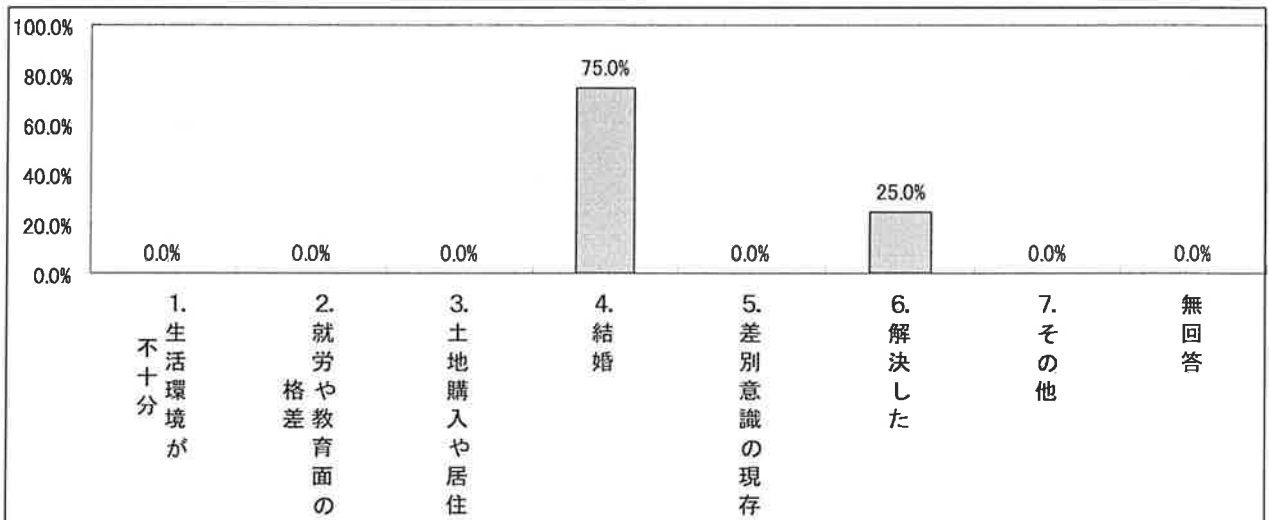
60才代



70才以上



年代性別無回答



### <分析>

- 全体では、「差別意識の現存」が34.8%と最も高く、次いで、「被差別部落出身の人との結婚」が14.6%であり、「部落問題は解決した」が12.8%である。
- 年代別では、「差別意識の現存」はどの年代でも高いが、特に40才代は48.6%と高い。「部落問題は解決した」は、70才以上が最も高く25.7%である。
- 男女別では、男女とも「差別意識の現存」が最も高く、次いで、男性は「部落問題は解決した」の16.6%であり、女性は「被差別部落出身の人との結婚」の15.3%である。
- 年代男女別で見ると、「差別意識の現存」は、40才代女性の56.9%が年代男女中最も高く、同年代男性の38.4%より18.5ポイントも高い。  
「部落問題は解決した」では、30才代と40才代で大きな差がみられる。30才代は、女性の2.3%に対し、男性は11.5ポイントも高い13.8%である。40才代は、女性の2.1%に対し、男性は14.0ポイントも高い16.1%である。

【質問16（部落問題解決の課題）と、質問12（部落差別の存在の認識）との関連】

[質問12の内容]

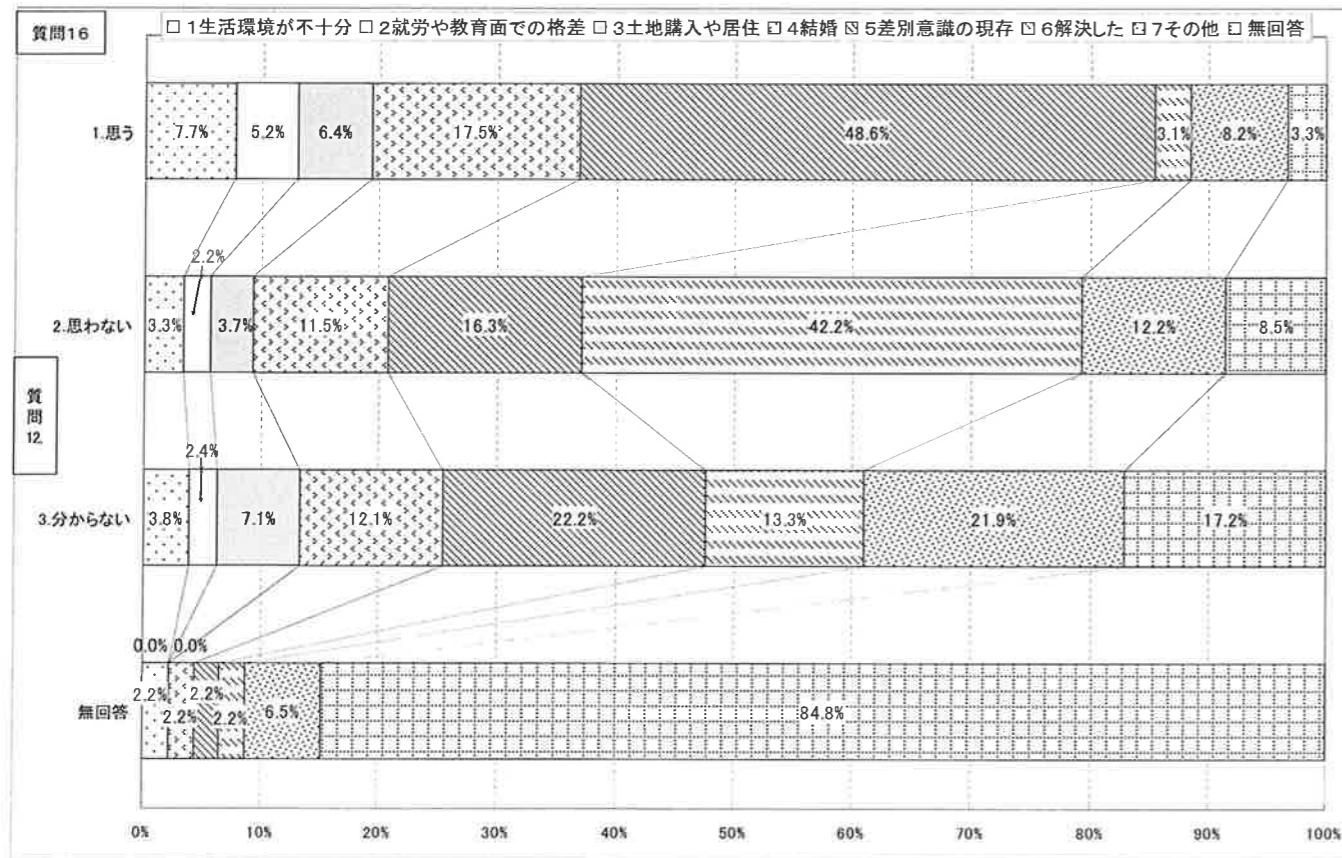
部落差別が今でもあると思いますか。

1. 思う。                      2. 思わない。                      3. わからない。

このクロス集計では、部落問題解決の課題として「差別意識の現存」とする回答について、部落差別の存在認識の違いによる回答傾向をみた。

質問12 \ 質問16	1 生活環境が不十分		2 就労や教育面での格差		3 土地購入や居住		4 結婚	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 思う	60	7.7%	41	5.2%	50	6.4%	137	17.5%
2. 思わない	9	3.3%	6	2.2%	10	3.7%	31	11.5%
3. 分からない	13	3.8%	8	2.4%	24	7.1%	41	12.1%
無回答	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.2%

質問12 \ 質問16	5 差別意識の現存		6 解決した		7 その他		無回答		計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
1. 思う	380	48.6%	24	3.1%	64	8.2%	26	3.3%	782
2. 思わない	44	16.3%	114	42.2%	33	12.2%	23	8.5%	270
3. 分からない	75	22.2%	45	13.3%	74	21.9%	58	17.2%	338
無回答	1	2.2%	1	2.2%	3	6.5%	39	84.8%	46
									1,436



<分析>

○ 部落差別が今でもあると「思う」と答えた人は54.5%、そのうち部落問題解決に向けて「差別意識の現存」が今特に問題であると48.6%の人が答えている。これは全体での回答34.8%に比べ13.8ポイント高い。また、部落差別が今でもあると「思わない」と答えた人の16.3%に比べ32.3ポイントも高い。

一方、部落差別が今でもあると「思わない」と答えた人は、「部落問題は解決した」と42.2%の人が答えている。これは部落差別が今でもあると「思う」と答えた人の3.1%より39.1ポイントも高い。このことから、部落問題解決にあたって部落差別の存在を認識していることが必要条件であるといえる。

## 【考察】

- ◎ 部落問題の解決に向けての課題としては、「差別意識の現存」とする回答が34.8%、次いで「被差別部落出身の人との結婚」とする回答が14.6%である。ところが、「部落問題は解決した」とする回答が12.8%ある。この回答は、60才代以上は20%以上あり、男女別では男性の方がその割合が高い。「部落問題は解決した」、「その他」、「無回答」を合わせると35.1%である。

クロス集計結果をみると、部落差別の存在を過半数の人が認識しており、部落差別の存在を認識している人は部落問題解決の課題として特に「差別意識の現存」(48.6%)と考えており、次いで「被差別部落出身の人との結婚」(17.5%)、「生活環境」(7.7%)、「土地購入や居住」(6.4%)、そして「就労や教育」(5.2%)の問題があると答えている。しかし、部落差別が今でもあると「思わない」とする人の4割以上は「部落問題は解決した」と答えている。部落差別の現実についての認識を深めることが部落問題解決の基本的要件である。

被差別部落の人との結婚はわかりやすい差別の問題として捉えられる。一方で、「就労や教育」、「生活環境」、「土地や居住」などに差別が現存している事は見逃しがちであるが、一人ひとりの生活に通じる現実の課題である。

部落差別の現実についての認識を深めるためには、結婚に関わる身元調査の問題や土地購入の問題など、自己課題として確認しあえる人権侵害や差別の問題を丁寧に学び合う場の工夫が求められる。